

文化・芸術

「球遊びをする子供たち」

1900年、リトグラフ、紙
58・5センチ×50・7センチ
(公益財団法人清春白樺美術館蔵)

ピエール・オーギュスト・ルノワール

(1841～1919年)

「印象派の巨匠」として、現在も世界中で親しまれているピエール・オーギュスト・ルノワール。画学生時代、モネやシスレーとともに画材を持って戸外での絵画制作を始め、光あふれる自然の中で風景を描く一方、戸外で食事やダンスを楽しむ同時代の人々の喜びに満ちた姿を生き生きと描き出しました。

本作は、1900年に制作された10色刷りのリトグラフで、当時フランスで流行していたボール遊びをする子供たちを題材とした作品です。ドレスの裾をはためかせて走り、競い合うように夢中になってボールをつかみ取ろうとする少女たちの楽しそうな姿が、明るく柔らかな色彩と軽やかなタッチで表されています。辺りに響く子供たちの元気な声を想像させるようであり、生命力と可能性に満ちあふれる子供たちに向けられたルノワールの温かなまなざしをうかがわれます。

この作品は、19日からのコレクション展でご覧いただけます。
(小此木)

《名画の扉》

大川美術館コレクションから

